

報告② 清州ヒキガエル公園からの報告

ハム・チュンホ(カエルの友達 モニタリングチームリーダー)

社団法人 ヒキガエルの友達の紹介 Introduction of 'Toad's Friends'

■ 人と自然の共存、ヒキガエル生態公園

2003年春から始まったヒキガエルを助ける運動は今年で10年目を迎えます。田んぼと畑だったウォンフンイ池は、今、周りをアパートと病院、検察庁、商店街に囲まれていて、かつての姿をまったく探し出すことはできません。ヒキガエルの主な棲息地であるクリョン山は、周辺地域の開発と増大する登山客によって深刻な破壊の危機に直面しています。しかし、造られてから5年が過ぎたくヒキガエル生態公園は少しずつ生態系が戻りつつあります。開発の前に比べると個体数は減りましたが、ヒキガエルたちは今年もウォンフンイ池を探して産卵をします。都心の生態公園の代表的な事例であるヒキガエル生態公園の造成過程とともに人間とヒキガエルの共存のための今の状況をお伝えします。

■ 住所：忠清北道清州市ホンドク区サンナム洞627番地 1階

Address : San-Nam dong 627th 1floor, Heungduck Gu, Cheong-Ju city, Chungbuk

■ 電話：043-292-3429 ■ ファックス：043-294-3429

■ E-mail：duggerbi3@hanmail.net ■ Homepage：www.toad.or.kr

<法人形態>

社団法人 (忠清北道 2007-1号)

<設立目的>

2003年度に清州市のサンナム3地区にあるウォンフンイ村で始まったヒキガエルを助ける運動を継承し、ヒキガエルと人間が共存するための“グリーン実験”を成功させるために、サンナム3地区のヒキガエル生態公園と周辺の市街地、およびクリョン山一帯の生態環境を保存してよりよくするための活動を展開し、

ヒキガエル生態公園を基盤にした生態教育の体系化・大衆化を試みることで自然を尊重する価値観と健康な市民文化を広め、持続可能な社会の建設に寄与する。

<主要事業>

1. ヒキガエルの持続的な生息のための生態環境の復元と保存運動 (ウォンフンイ池とクリョン山一帯)
2. 生態公園の生態教育活動家の発掘と育成 (ヒキガエル生態公園ガイド)
3. 生態公園の生態教育プログラムと教材の開発と体系的な生態教育の実施
4. 生態公園の保存に必要な基金と施設の確保 (クリョン山一坪購入運動の展開)
5. 生態公園、および両生類の保全に必要な研究・調査・広報・政策立案活動
 - ソンファ2地区、およびユルリャン2地区のジムグリガエル生態公園造成要求
 - 忠清北道教育委員会の教育情報院の土地をジムグリガエル棲息地として保護する活動。
6. ヒキガエル、ジムグリガエルなど両生類の保護のための連帯活動
 - 韓国両生類保存ネットワークの発足を主導 (事務局団体)

